

2025年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

## < 国 語 >

### 1. 2024年度の問題分析

#### ①推薦入試

平均点は56.5点。試験内容は、例年と同様に、知識問題と短めの文章読解を含む小問集合で、点数配分も第1回・第2回同様の知識問題40点、文章読解60点でした。2024年度の小問集合は昨年と同等レベルで、知識問題(問十まで)の正答率は50.7%でしたが、従来の問題傾向にしたがった漢字(熟語)、言葉の意味の問題で正答率が低いもの(問一「素地」の読みを答える問題や、問八の漢字の熟語を作る問題など)も多くありました。問七の共通する言葉を答えて慣用句を完成させる問題や、問九の三字熟語の漢字を答える問題は正答率が低く、その言葉を知らないと思われる解答も多く見られました。いろいろな言葉に興味を持ち、地道に語彙を増やしていくことが大切に思われます。問十の短文を作る問題は比較的よくできていましたが、「あながち」を「ありがち」と勘違いしている受験生も多かったようです。長文読解問題は、現代における人と人との繋がり方についての論説文で、正答率は60.3%でした。全体の正答率としては低くはありませんが、問十一の4は選択肢の文と本文の内容が読み取れていない受験生が多かったためか、正答率が非常に低くなりました。

#### ②第1回入試

平均点は51.5点。問題の構成は例年どおりで、推薦入試と同様の小問集合を40点、長文問題(説明的文章)を60点として出題しました。小問集合は、基本的な問題の他に、ヒントを元に自分で考えて解く問題も多く、正答率は46.9%でした。問四や問六、問八など、問題文の導きに従って考える問題でしたが、正答率はあまりよくなく、20~30%の正答率となりました。問十一の短文作成問題はシチュエーションがわかるように書けず、減点の対象となってしまう文章が多く見られました。また、「まごまごと」という言葉を「こまごま」や「もごもご」という意味としてとらえている受験生も多かったようです。長文問題は、宮沢賢治作品を元にしながら現代社会の抱える格差のひずみを論じた説明的文章。今回の入試も、文字数が10000字を超える長文で集中力が必要になったことと思いますが、宮沢賢治作品を引用した文章で比較的読みやすい文章であったかと思われまます。長文の正答率は58.0%でした。正解を本文中から抜き出して答える問題では、漢字の間違いや文中からそのままの形で抜き出せない初歩的なケアレスミスが多く目立ったので、本文が長くてもそれに動じず注意深く確認することが大切でしょう。また、本文全体の内容を把握しているかを問う問題の正答率が低かったように感じられました。文章量が多くても落ち着いて解答するには、文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて解答する習慣を身につけていくことが必要です。

#### ③第2回入試

平均点は54.0点。問題の構成、配点は推薦・第1回と同様です。小問集合は推薦や第1回の出題形式と同じパターンのものもいくつか出題しました。敬語に関する問題や言葉に関する問題など、言葉を知っていればできる問題がいくつかありましたが、それらの言葉や使い方を知らない受験生も多かったようです。「のべつ幕なし」を使った短文でも、この言葉の意味を知っている受験生があまりいなかったようで、ただの「幕」のことを表していると思っている受験生が非常に多く見られました。小問集合の正答率は38.7%でした。長文読解問題は、文学的文章。二人の大人と少年が、釣りを通してお互いに心を通わせていく様子を描いた小説でした。場面の中の状況や心情を考える問題は比較的正確率が高かったのですが、動作の形容表現や文章表現の効果を問う問題は正答率が低くなりました。正答率は66.6%。第2回の長文読解問題でも長文を読む力が身につけている人と、内容が正確に読み取れない人との差が激しい結果となりました。こちらも第1回同様、語彙力を高めながら、なるべく文章量の多いものを時間内で整理しながら読む練習が必要となります。

### 2. 2025年度入試の傾向と対策

#### ①全体の構成

今年度も推薦入試(40分、100点)、第1回・第2回入試(50分、100点)ともに、小問集合と長文読解問題1題という形式で出題します。推薦入試の長文読解の文字数の規定は設けませんが、第1回・第2回に比べると試験時間も40分と短いので、第1回・第2回同様のすくなく長い長文が出るというわけではありません。入試の形式、内容、配点は例年どおりで変更はありません。

#### ②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句(外来語も含めて)の意味選びなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは漢字力(意味を含めて)を鍛えてください。

#### ③長文問題について

全ての入試において1題だけの出題ですので、問題文自体は長めになると思います(推薦入試の場合は解答時間が少ないこともあり、平均的な分量になるかと思えます)。文章のジャンルとしては、説明的文章(評論など)か文学的文章(小説や随筆など)かのどちらかを出題します。

長文問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。また選択肢の問題で正答率をあげるには、解答の骨格となる内容を本文中から客観的に探し、それを別の言葉に置き換えて説明する訓練をしておくといいでしょう。記述問題に関しても、同様の訓練が必要になりますが、問いが求めている内容や答え方に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならぬか、あるいはそのままでもいいかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していないもの、要点は十分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。問題文をよく読まず、指示した事柄に対応していないものや、「あてはまる」内容の選択肢を答えるのか、「あてはまらない」内容の選択肢を答えるのか、そのような初歩的なミスと思われる答案も多いので、十分に注意してください。

また2024年度の推薦入試で見られたように、本文の内容を元にして自分の考えを説明するような問題もあるかもしれません。常に柔軟な意識をもって物事に接していく必要があります。好奇心を持ち、語彙を豊富にして自在に思考を廻らすことができると良いですね。

なお、小問集合、長文問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、よく日常で用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出题する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけない場合があります。国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読む心がけてください。

# 2024年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①		○				
	②			○			
	③			○		◎	
	④		○				
	⑤				○		
	⑥		○				
問二		○					
問三				○			
問四		○					
問五	○						
問六		○					
問七					○		
問八				○			
問九				○			
問十		○				◎	
問十一	1	a	○				
		b	○				
		c	○				
	2	○					
	3	I	○				
		II	○				◎
	4				○		
	5			○			
	6		○				
	7	I			○		◎
II				○		◎	
III			○				
IV		○					
8		○					
9	⑦		○				
	⑧		○				
10	ア		○				
	イ		○				
	ウ			○			
	エ		○				
オ			○				

総合	56.9%
----	-------

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	問一	①	○				
		②	○				
		③			○		
		④		○			
		⑤	○				
	問二	○					
	問三		○				
	問四			○			
	問五			○			
	問六			○			
	問七		○				
問八			○				
問九			○				
問十			○				
問十一				○			
2	問一	a	○				
		b	○				
		c	○				
		d			○		◎
		e	○				
	問二		○				
	問三	○					
	問四	ア			○		◎
		イ	○				
	問五			○			
	問六			○			
	問七	I		○			
II			○			◎	
問八			○				
問九		○					
問十	A		○			◎	
	B			○			
	C			○		◎	
問十一			○				
問十二			○				

大問別	1	46.9%
	2	58.0%
総合		53.2%

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	問一	①		○			
		②		○			◎
		③			○		◎
		④	○				
		⑤				○	
	問二		○				
	問三			○			
	問四				○		
	問五			○		◎	
	問六				○		
	問七		○				
問八				○			
問九			○		◎		
問十	○						
問十一				○			
2	問一	a	○				
		b	○				
		c	○				
		d		○			
	問二		○				
	問三		○				
	問四	○					
	問五	A		○			
		B		○			
		C		○			◎
	問六		○				
	問七			○			
問八		○					
問九			○				
問十		○					
問十一		○					
問十二			○				

大問別	1	38.7%
	2	66.6%
総合		53.5%

## < 算数 >

### 1. 2024年度の問題分析

#### ①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておくことが必要です。

平均点は 41.7点。第1問の四則混合計算問題の正答率は77.3%と大変よくできていました。第2問の特殊算を使った一行問題は、正答率は51.8%となり特殊算の演習不足、準備不足が見うけられました。(5)の規則性と周期性の問題や(6)のニュートン算の問題は、難しいですが演習を重ねることで、解けるようになります。第3問(2)の記述問題の正答率が低くなりました。基本的な場合の数の問題なのですが、普段から記述の練習をしておかないと答えは出せても説明できないという部分で差が出てしまったと思います。第4問の図形の問題は、(2)の正答率が低くなりました。図形の性質を使い、工夫して求めることで簡単に求めることができたのですが、気付かなかった受験生も多かったようです。第5問のグラフ問題は、正答率が低くなりました。特に不合格の受験生は、(1)で間違えてしまうことにより、それ以降の問題が不正解になってしまったようです。

#### ②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は 61.4点。第1問の四則混合計算問題はとても高い正答率でした。第2問の特殊算を使った一行問題については(1)~(3)は基本的な特殊算の問題を出題し、(1)(3)の正答率は高くなりました。(5)の問題は、規則性を考える問題でした。第2問の他の問題と違い、特殊算を使うものではなかったのも、取り組みづらかったかもしれません。第3問の経過を見る問題については、良く出来ていたと思います。第4問では、正答率が全体的に良くありませんでした。図形に苦手意識がある受験生が多いように感じました。平面図形・空間図形の頻出問題を解くことで解法が身につきます。初見だとしても補助線や図形の性質を理解しておけば対応できます。第5問のグラフの問題は、正答率が30.7%と低くなりました。第4問を解くまでに時間がかかってしまったこと、グラフの様々なパターンの類題を解いていないと思われる。(2)は合格者と不合格者の正答率の差が大きくなりました。グラフ全体を見て、状況を把握することができたかどうかで差が出たと思います。(3)は、正答率が低くなりました。状況を把握しづらいことと時間が足りなくなってしまったことが原因だと思います。

#### ③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は 57.9点。全体的に、第1問の計算力や第3問の経過問題における読解力はあったようです。また、第4問(2)においては合格者と不合格者の正答率の差が出ました。図形の問題は、少し工夫すると簡単に解ける問題もあります。過去問で準備をしっかりすれば得点源になります。第5問のグラフ問題の正答率は47.7%と低くなっています。(1)で正答できずに(3)(4)が答えられなかった人が多く見られました。グラフの読み取りは、中学の数学でも必須です。情報を整理して、式を立て計算したりと数学の総合的な力が必要になります。類題や問題演習を通してしっかり対策をしてもらいたいと思います。

### 2. 2025年度入試の傾向と対策

2025年度入試については、昨年度との変更点として第3問(2)の記述問題を(1)と同様に穴埋め問題とします。出題については、すべての試験において同じ形式で行います。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2問用意し、両問とも穴埋め問題とします。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約60%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思います。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。図形問題については、円周率 3.14 などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かったところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

# 2024年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			
	3		○			◎
2	1	○				
	2			○		
	3		○			◎
	4		○			
	5				○	
	6			○		◎
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ		○		◎
		オ		○		◎
	2			○		
4	1			○		
	2				○	
	3			○		
5	1				○	
	2			○		
	3				○	
	4				○	

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			
2	1	○				
	2			○		
	3	○				
	4	○				
	5			○		
	6		○			
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ		○		◎
		エ		○		
		オ		○		◎
	2			○		◎
4	1		○			
	2		○			
	3			○		◎
5	1		○			
	2			○		◎
	3				○	
	4				○	

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			
	3		○			
2	1	○				
	2			○		
	3		○			
	4		○			
	5		○			◎
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ		○		
		エ		○		
		オ		○		
	2		○			
4	1				○	
	2		○			◎
	3		○			
5	1		○			◎
	2		○			◎
	3			○		
	4			○		◎

大問別	1	77.3%
	2	51.8%
	3	52.3%
	4	23.1%
	5	13.3%
総合	44.5%	

大問別	1	86.4%
	2	63.0%
	3	73.1%
	4	58.3%
	5	30.7%
総合	62.5%	

大問別	1	73.9%
	2	55.3%
	3	71.3%
	4	41.7%
	5	47.7%
総合	59.0%	

## < 社会 >

### 1. 2024年度入試の問題分析

#### ①推薦入試

社会と理科合わせて50分、配点は各50点満点です。各分野のテーマは、

【地理】関東大震災から100年という年を鑑みて自然災害を中心に出题しました。

【歴史】日本における文字の歴史(万葉仮名やかな文学など)やその関連で日本の教育関係史をテーマに、古代から現代まで様々な問題を出题しました。

【公民】子どもの権利や人権を中心に、多角的に日本国憲法や国際連合など関連するものにも派生した問題を出题しました。

#### ②第1回入試

第1回入試の試験時間は、30分間で配点は60点満点です。各分野のテーマは、

【地理】日本の海から自然環境をテーマに地図・グラフなども含めた多岐にわたる総合的な問題を出题しました。

【歴史】千葉県誕生150周年に由来し、地方史と通史の関連を探りつつ総合的な問題を出题しました。

【公民】日本国憲法と男女同権をテーマに国際問題をもからめて政治面・国際面を中心に問題を出题しました。

#### ③第2回入試

第2回入試も第1回入試と時間・配点は同様です。しかし、テーマについては事前公開はしておりません。

【地理】ふるさと納税をテーマに各地の産物など日本全国に及ぶ産業について地図・グラフを駆使した問題を出题しました。

【歴史】戦争をテーマに、古代から現代に至るまで日本の歴史を俯瞰し、戦争が起きる前と後について、日本の社会がどのように変化したのかについて出题しました。

【公民】福島の水処理問題やウクライナ侵攻問題、日本の政治の仕組みなど時事問題を中心に出题しました。

合否の差は、社会科の用語を正確に漢字を使用して書けているかどうかという点と、出題の意図をきちんと把握して解答できているかの読解力によるものでした。慌てず、直感力ではなく丁寧に問題を読む力が合否のカギとなると思います。

### 2. 2025年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出题します。推薦入試は地理・歴史合わせて35点前後、公民は15点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれで20～25点、公民は15点前後の予定です。大問と出题分野はおおよそ対応しますが、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたいと思います。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

推薦入試に関しては、理科と合わせて50分という短い試験時間になっていますので、時間配分に気をつけてください。

難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出题します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもらう論述問題を出题することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分となります。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する記述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

# 2024年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤		
1	1		○					
	2	①		○				
		②			○			
	3		○			◎		
	4			○				
	5			○				
	6		○					
	7		○					
	8				○			
	9				○			
	10		○					
	11		○			◎		
12		○						
2	1		○					
	2			○				
	3	①				○		
		②			○			
	4		○					
	5			○				
	6			○				
	7		○					
	8		○					
	9				○			
10				○				
3	1	①	X			○		
		Y		○		◎		
		②		○				
	2	①			○			
		②				○		
	3		○					
	4		○			◎		
	5	①	a		○			
			b				○	
			c	○				
②				○		◎		
6			○					

大問別	1	59.5%
	2	45.6%
	3	46.5%
総合		50.8%

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2		○			◎	
	3			○			
	4		○			◎	
	5			○			
	6		○				
	7	①		○			
		②		○			
	8	①			○		
		②				○	
	9		○				
	10	a			○		
b		○					
11		○					
12				○			
2	1		○				
	2		○				
	3	○					
	4		○				
	5			○			
	6		○				
	7		○			◎	
	8	○					
	9			○		◎	
	10		○				
	11		○				
	12		○				
	13		○				
	14	○					
	15			○			
	16	○					
	17			○			
3	1		○				
	2		○				
	3	○					
	4		○				
	5	①		○			
		②			○		
		③			○		
	6	○					
	7	○					
	8			○		◎	
9			○				
10			○				

大問別	1	51.2%
	2	64.0%
	3	58.5%
総合		58.1%

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	①				○	
		②				○	
	2		○				
	3	①			○		
		②		○			
	4		○				
	5	○					
	6		○				
	7	①		○			◎
		②			○		
	8		○				
9	○						
10		○					
11			○		◎		
2	1			○			
	2		○				
	3			○		◎	
	4			○			
	5			○			
	6		○				
	7		○				
	8			○		◎	
	9		○			◎	
	10			○			
	11			○			
	12				○		
	13			○			
	14			○			
3	1			○			
	2		○				
	3	○					
	4				○		
	5			○			
	6				○		
	7			○			
	8			○			
	9	①			○		
②			○				
③				○			

大問別	1	51.9%
	2	40.9%
	3	39.5%
総合		44.5%

## < 理科 >

### 1. 2024年度の問題分析

#### ①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は24問)。大問1は小問集合で、生物・化学・地学・物理の順に各2問ずつ計8問を出題しました。基本的な知識を答える問題を出題しましたが、化学分野の「物質の見分け」の問題以外は、正答率が50%に届かず、その中でも特に地学分野の2問の正答率は低めとなりました。大問2は生物分野で「植物(アジサイ)」に関する内容でした。大問2(生物)の前半部分はアジサイとの関連事項を問う出題、植物の構造について正確に理解できているかを問う出題で、正答率がかなり低くなりました。大問3は地学分野で「太陽の動き」に関する内容でした。正確な知識の理解を必要とする問題であり、方角を答える問題以外は、正答率が50%に届きませんでした。大問4は物理分野で「電気(電力)」に関する内容でした。問題文の誘導に従って解く問題で、他の大問と比較しても正答率が高めとなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問3(地学)の「太陽の動き」に関する3問、大問4(物理)の「電力量計算」に関する2問となりました。

#### ②第1回入試

問題数は大問5問です(60点満点、総問題数は30問)。大問1は推薦入試と同様に小問集合で、生物・化学・地学・物理分野から出題しました。生物分野の1問以外は正答率が50%を超えました。大問2は生物分野で「菜の花」と「渡り鳥」に関する内容でした。「離弁花」を選ぶ問題と渡り鳥に関する考察問題の正答率が低くなりました。大問3は化学分野で「二酸化炭素」に関する内容でした。ドライアイスに関する問題と、少し複雑な計算問題の正答率が低めとなりました。大問4は地学分野で「天気」に関する内容でした。天気予報で取り扱う内容も比較的多く、正答率が高くなりました。大問5は物理分野で「光の速さ」に関する内容でした。すべて計算問題となりましたが、前半の3問は問題文の誘導による計算で、正答率は高めでした。後半の3問は歯車の回転と光の進み方に関する内容で、正答率はかなり低くなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問1(小問集合)の「毛細血管と養分」に関する問題、大問2(生物)の「菜の花の別名」を答える問題、「菜の花と昆虫の卵」と「羽毛」に関する問題、大問3(化学)の「二酸化炭素の発生量」の計算問題、大問4(地学)の「天気と温度」に関する正誤問題となりました。

#### ③第2回入試

出題形式は第1回と同様で、大問5問です(60点満点、総問題数は29問)。大問1は他の試験と同様に小問集合を出題しました。地学分野の「火山岩」をすべて選ぶ問題の正答率は低めでしたが、それ以外の問題の正答率は50%前後、もしくはそれ以上となりました。大問2は生物分野で「ハリガネムシとカマキリ」に関する内容でした。前半は知識問題、後半は問題文からの考察問題となっていました。大問2は生物分野で「外骨格を持つ生物」を選ぶ問題以外は正答率が高くなりました。大問3は化学分野で「水溶液」に関する内容でした。実験条件から水溶液を特定する問題となっていました。基本的な知識問題もあり、正答率はどの問題も50%を超えました。大問4は地学分野で「地学分野全般の正誤」に関する内容でした。一般的な知識問題であったため、正答率も50%前後、もしくはそれ以上となりました。大問5は物理分野で「浮力」に関する内容でした。前半は比較的簡単な条件ではありましたが、正答率は50%前後で、複雑な条件となっていた最後の2問は、正答率はかなり低くなりました。合否の正答率の差が大きくなった5問は、大問1(小問集合)の「金属の共通性質」に関する問題、大問2(生物)の「水辺の生物」に関する問題、大問4(地学)の「季節風」に関する問題、大問5(物理)の比較的簡単な条件の浮力計算2問となりました。

### 2. 2025年度入試の傾向と対策

3回のすべての入試において、2024年度入試まで出題していた小問集合は出題しません。また、推薦入試では、2025年度入試から化学分野の大問を出題します。従って、**推薦・第1回・第2回のすべての入試で、大問4問(生物分野・化学分野・地学分野・物理分野)になります。**推薦入試は社会と合わせて50分(単純計算では理科の配分は25分)、第1回、第2回はそれぞれ30分で、制限時間に見合った出題を予定しています。配点は例年通り、推薦は50点(総問題数25問程度)、第1回と第2回はそれぞれ60点(総問題数30問程度)となります。難易度については例年通りの予定ですが、生物・化学・地学・物理のそれぞれの科目内でも分野特性がありますので、出題内容によっては、易しく感じる問題もあれば、難しく感じる問題もあると思います。各回ともに、基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題などを出題する予定です。また、問題文で与えられた条件から考察する問題、簡単に説明する問題など、知識を活用しながら答えを導く問題についても解く練習をしっかり行ってもらいたいと思います。



# 2024年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2			○			
	3		○				
	4			○			
	5			○			
	6			○			
	7			○			
	8			○			
2	1				○		
	2				○		
	3	a				○	
		b			○		
4		○					
3	1		○				
	2			○		◎	
	3			○		◎	
	4			○		◎	
	5			○			
4	1	○					
	2	①	○				
		②		○			
	3		○			◎	
	4			○		◎	
5				○			

大問別	1	39.0%
	2	26.1%
	3	46.6%
	4	61.6%
総合	43.5%	

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○		◎	
	2		○				
	3		○				
	4	○					
	5		○				
	6		○				
	7		○				
	8	○					
2	1	①	○			◎	
		②		○			
		③		○			
	2		○			◎	
3	○						
4			○				
3	1	○					
	2			○			
	3	①	○				
		②			○		◎
③					○		
4	1		○				
	2	○					
	3	○					
	4			○		◎	
	5			○			
5	1		○				
	2		○				
	3		○				
	4				○		
	5				○		
	6				○		

大問別	1	67.1%
	2	57.4%
	3	46.9%
	4	65.9%
	5	33.5%
総合	54.9%	

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2		○			
	3			○		◎
	4	○				
	5		○			
	6			○		
	7	○				
	8			○		
2	1		○			◎
	2				○	
	3		○			
	4	○				
	5	○				
3	1	○				
	2	○				
	3	○				
	4	B	○			
D			○			
F			○			
4	1		○			
	2	○				
	3		○			
	4			○		◎
	5		○			
5	1			○		
	2		○			◎
	3			○		◎
	4				○	
	5				○	

大問別	1	60.7%
	2	67.0%
	3	80.9%
	4	62.0%
	5	28.0%
総合	60.5%	

Memo

Memo

